

科目ナンバー	GLS-2-024-k			科目名	海外フィールドワーク(マレーシア)		
教員名	岡井 宏文			開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
概要	本授業は、海外現地調査を伴う授業です。 対象地はマレーシアです。マレーシア社会の諸相を、まず文献によって学び、現地において実態を調査し、分析し、研究成果の公表までを行います。 調査地は、クアラルンプールとジョージタウン(ペナン島)を予定しています。 具体的なテーマは、多民族社会における「共生・共住」「宗教」「食文化」「イスラーム(ハラール産業、ファッション)」「観光」、日馬関係等を予定しています。マレーシア社会を知るだけでなく、マレーシアでの学びから日本社会について考える比較社会的視点も養ってもらいたいと考えています。 履修者は、上記のテーマの中から自らの調査テーマを選定します。前期の事前学習においてテーマに関する知識と調査方法を習得し、調査計画を立案し、夏休みに現地調査に臨みます。調査の他、現地の大学において、調査結果のプレゼンテーションや交流も行います。 後期には、調査データの分析、シャロン祭での成果報告、最終報告書の執筆を行います。						
到達目標	①渡航先の基本情報を習得する ②海外渡航に必要な諸手続・留意点を理解する ③各自のテーマに関する知識、調査方法(調査法、資料収集・整理等)を習得する ④現地での成果を、フィールドノートおよび報告書としてまとめる事が出来る ⑤海外での体験や資料を通じて、異文化理解・国際比較の視点を習得する ⑥英語、マレー語など、現地でのコミュニケーションや調査に必要な言語を身につける。						
「共愛12の力」との対応							
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力		伝え合う力	○	分析し、思考する力	○
共生のための態度		自己を抑制する力		協働する力		構想し、実行する力	○
グローバル・マインド		主体性	○	関係を構築する力	○	実践的スキル	
教授法及び課題のフィードバック方法	常に受講生全員と教員が討論・相談する形で行う。基本的に演習型である。必要に応じて、ミニ実験、グループワーク、ミニ講義など多様な方法を取り入れる。フィールドワークの内容、方法を考えるためのアイデア・発想のため、映画を用いて考えることもある。						
アクティブラーニング	○	サービスラーニング			課題解決型学修		
受講条件 前提科目	「フィールドワークの方法Ⅰ、Ⅱ」を受講中あるいは受講済みであることを強く勧めます。 心身のコンディションが悪い人は事前に相談すること。実際に海外に行くことを実行した学生のみ単位履修ができる。定員は10名程度です。どのコースからも参加可能ですが、応募者が多い場合は、選抜を行います。その際は、国際コースが優先となります。						
アセスメントポリシー及び評価方法	(1)通常の授業への取り組み(調べ作業と発表、シャロン祭展示会への貢献度など)30% (2)夏休みのフィールドワーク参加態度とフィールドノート作成30% (3)最終報告書40%						
教材							
参考図書	岩崎育夫 2017『入門 東南アジア近現代史』講談社。 今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程編 2014『東南アジアを知るための50章』明石書店。 宇高雄志 2017『多民族(共住)のダイナミズム:マレーシアの社会開発と生活空間』昭和堂。 宇高雄志 2008『住まいと暮らしからみる多民族社会マレーシア』南船北馬社。 重松信司 2019『マラッカ海峡物語 ペナン島に見る多民族共生の歴史』集英社新書。 藤巻正己・江口信清編著 2009『グローバル化とアジアの観光:他者理解の旅へ』ナカニシヤ出版。 江口信清・藤巻正己編著 2011『観光研究レファレンスデータベース 日本編』ナカニシヤ出版。 野中葉 2015『インドネシアのムスリムファッション-なぜイスラームの女性たちのヴェールはカラフルになったのか』福村出版。 笹川平和財団編 2018『アジアに生きるイスラーム』イーストプレス。 古川音 2019『マレーシア 地元で愛される名物食堂 ローカル過ぎて地球の歩き方に載せられなかった地域密着の繁盛店』ダイヤモンド・ビッグ社。 ラット,左右田直規・稗田奈津江訳 2014『カンポンボーイ』東京外国語大学出版会。 『地球の歩き方』など旅行ガイドブック						
	Ⅰ 前期の前半:フィールドワークに対する意義や関連理論に関して、配布資料や映像資料を活用して学習する。 Ⅱ 前期の後半:訪れる国に関して、指定教材のテキスト発表もしくは小レポート課題を通じて基礎知識						

内容・スケジュール	<p>を学習する。現地滞在与取材・調査の注意事項や手配などを確認する。訪れた所で各自あるいはグループでテーマと視点を決め、調べ学習や調査計画を練り上げる。</p> <p>Ⅲ夏休み中:1週間～10日程度の現地訪問をし、現地の人々と関わり、街探検をしながら各自のテーマで観察・インタビューなどを実施する。全員、必ずフィールドノートを記入する。</p> <p>Ⅳ後期の前半:自分の体験や収集した資料、フィールドノート、写真や動画などの調査データを基に、人々に伝えるためにどのようなまとめ方をするのかを探る。まずは学園祭の時に展示会として表現し伝える。</p> <p>Ⅴ後期の後半:各自のテーマで自分の資料や体験に基づいて報告書を作成する。</p>
-----------	--

Number	GLS-2-024-k	Subject	Field Work (Italy)		
Name	岡井 宏文 (Okai Hirofumi)	Year and Semester	Full-year for 2020	Credits	4
Course outline	<p>This course aims to give students a chance to research and experience cultural exchange in a foreign country (Malaysia).</p> <p>Before travelling to Malaysia (Kuala Lumpur and Penang Island), students are expected to master vital research skills for the fieldwork, and acquire basic knowledge regarding Malaysia including its history, politics, religions, cultures, languages and so on, to determine a research subject they wish to focus on.</p> <p>After the fieldwork, students are required to analyze research results and also output them by conducting a presentation at Chalon festival and also writing a final report.</p>				